

生成AIの利活用状況に関する調査

●はじめに

ChatGPTの登場以降、生成AIは急激に注目を集めており、中小企業においても業務での利活用が進んでいる。

そこで、地域中小企業における生成AI利活用の実態、および利活用促進に向けた課題を把握することを目的に、調査を実施した。

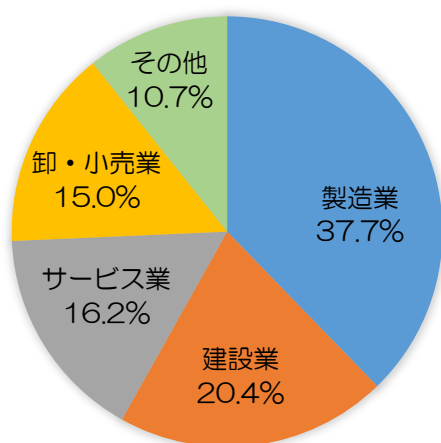
●調査概要

調査時期：令和7年7月23日（水）「せいしんビジネスクラブ 総会」開催時

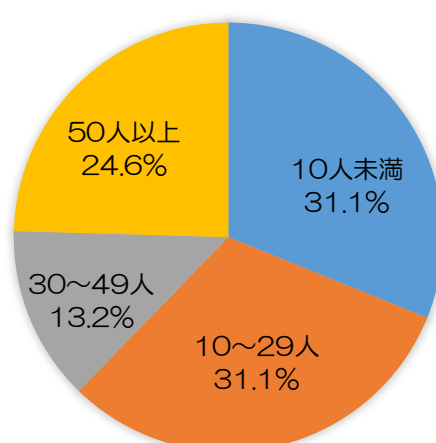
調査対象：せいしんビジネスクラブ会員

回答数：対象企業数 182社 回答数 167社 有効回答率：91.7%

《業種内訳 (n=167)》



《従業員規模内訳 (n=167)》



●要旨

● 中小企業における生成AIの活用は、「黎明期」から「実用フェーズ」へ

- ◆ 生成AIは5割強の中小企業で利用中。日常利用はまだ一部に限られるが、今後導入を検討している企業も3割あり、今後利用拡大が進むと考えられる。

● 利活用領域の拡大が進行中

- ◆ 活用用途は「社内資料作成」や「検索・情報収集」など業務の補助的な利用方法が多い。今後は、「データ分析」、「社内教育・研修用資料作成」など、課題解決や付加価値を高める業務へ用途が拡大していくことが予想される。

● 生成AI普及のカギは、「教育」と「支援」

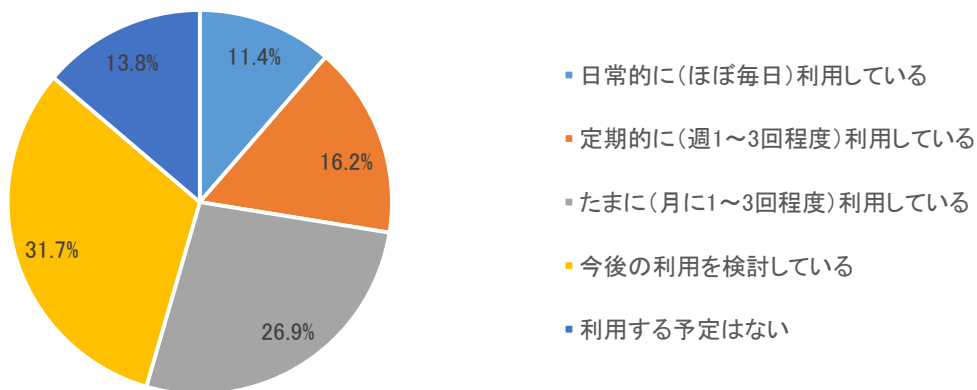
- ◆ 業務の効率化や創造力の補完など、業務補助の効果は認められるものの、「コスト削減」や「人手不足の補完」、「社員のスキルアップ」に対する効果は一部にとどまる。
- ◆ 「人材・スキル不足」や「情報の正確性」、「セキュリティ」を課題としており、安全性・信頼性を担保するための教育やルール整備が求められている。
- ◆ 事例共有や実践ノウハウの紹介など、実務的な支援を求める声強い。

※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております。

Copyright (C) 2025 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

本レポートは、当金庫が実施したアンケートに基づき集計分析したもので、無断で複写・転写することはできません。また、本レポートは情報提供が目的であり、お客さまの決定、行為、およびその結果について、当金庫は一切の責任を負いません。

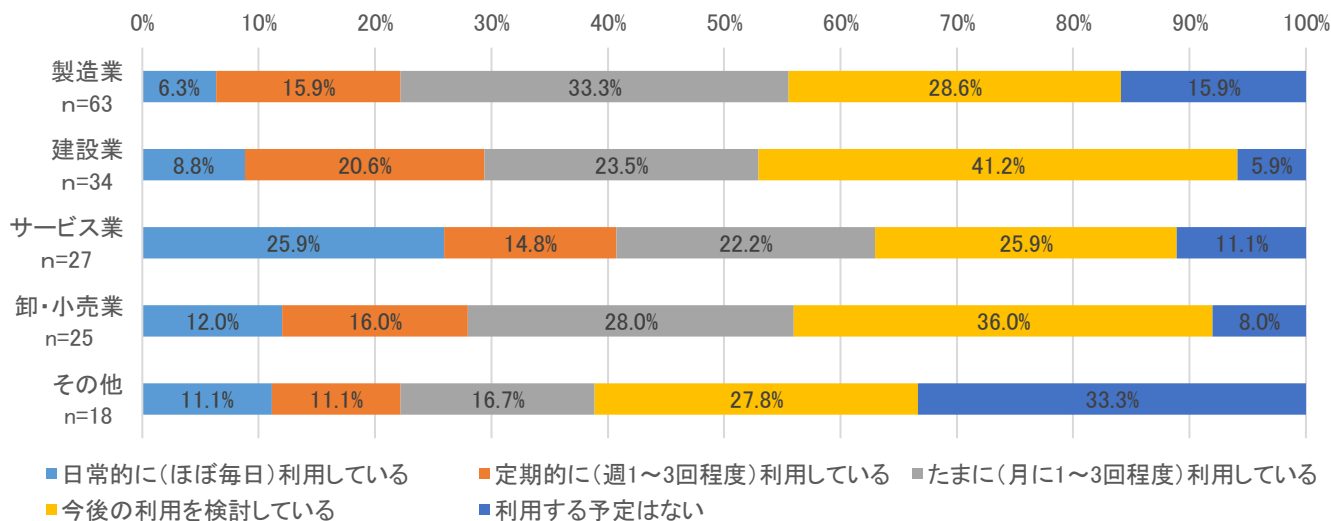
1. 業務での生成AIの利用状況 (n=167 SA)



「日常的に(ほぼ毎日)利用している」「定期的に(週1~3回程度)利用している」「たまに(月に1~3回程度)利用している」を合計した54.5%の中小企業が業務で生成AIを利用しており、実用化が進んでいる。

「日常的に(ほぼ毎日)利用している」という企業は11.4%に留まり、生成AIの活用余地はまだ大きく残されている。但し、31.7%の企業が「今後の利用を検討している」としており、生成AIは、中小企業の業務において、今後普及や利用拡大が進むと考えられる。

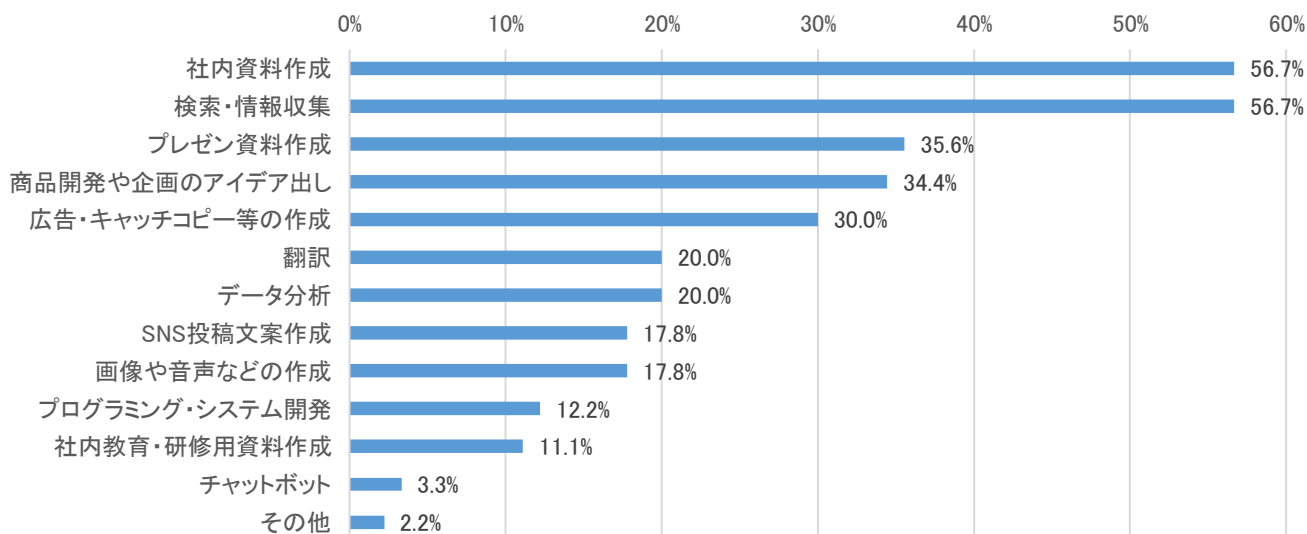
<業種別>



業種別にみると、サービス業では「日常的に(ほぼ毎日)利用している」が25%を超えた一方で、製造業・建設業では10%を下回った。業種によって利用状況に差が生まれているのは、業務内容やPC・インターネット環境の整備状況などの要因が考えられる。

2. 現在活用している生成AIの用途 (n=90 MA)

問1で「日常的に利用している」「定期的に利用している」「たまに利用している」と回答した方のみ

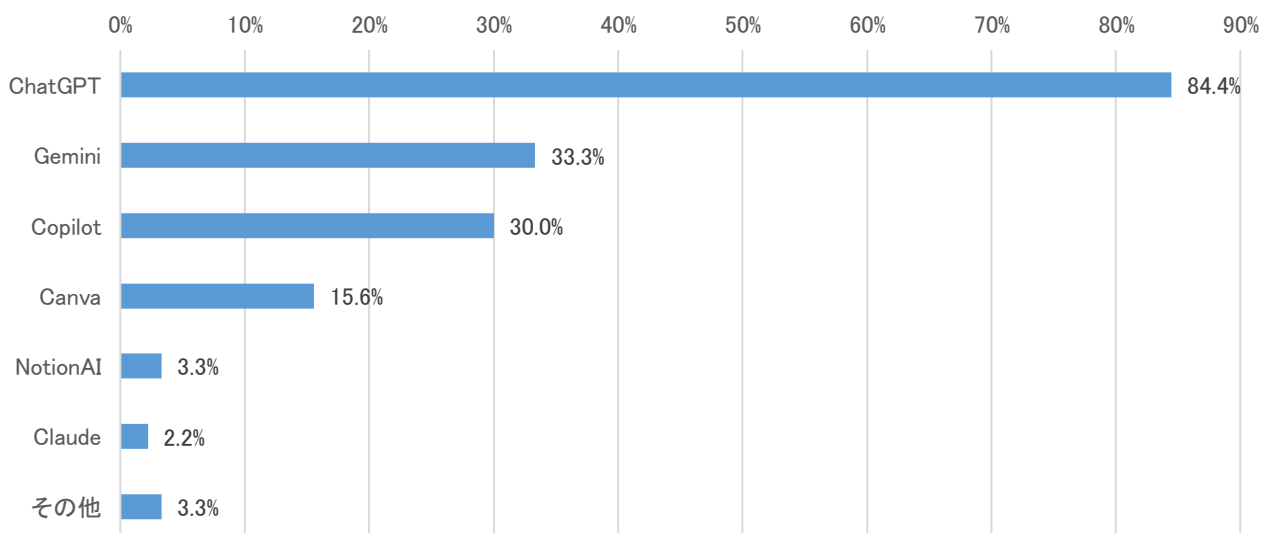


業務での生成AIの用途は、「社内資料作成」「検索・情報収集」が6割弱となり、業務補助的な用途での活用が多い。また、「商品開発や企画のアイデア出し」や「広告・キャッチコピー等の作成」といった創造的な用途でも3割が活用している。

一方、「画像や音声などの作成」「プログラミング・システム開発」「社内教育・研修用資料作成」や、「チャットボット」の利用はまだ限定的となっている。

3. 利用している生成AI (n=90 MA)

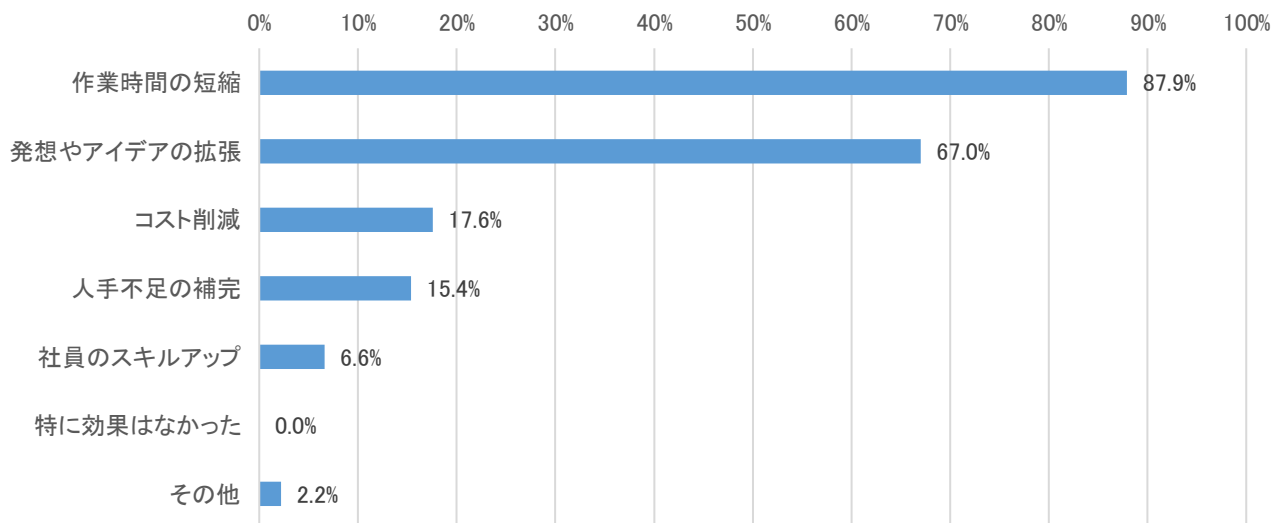
問1で「日常的に利用している」「定期的に利用している」「たまに利用している」と回答した方のみ



利用している生成AIサービスは「ChatGPT」が8割超と、圧倒的多数派になっている。多くの企業が多様な生成AIサービスを提供しており、Googleの「Gemini」やMicrosoftの「Copilot」といったツールも一定数利用されている。

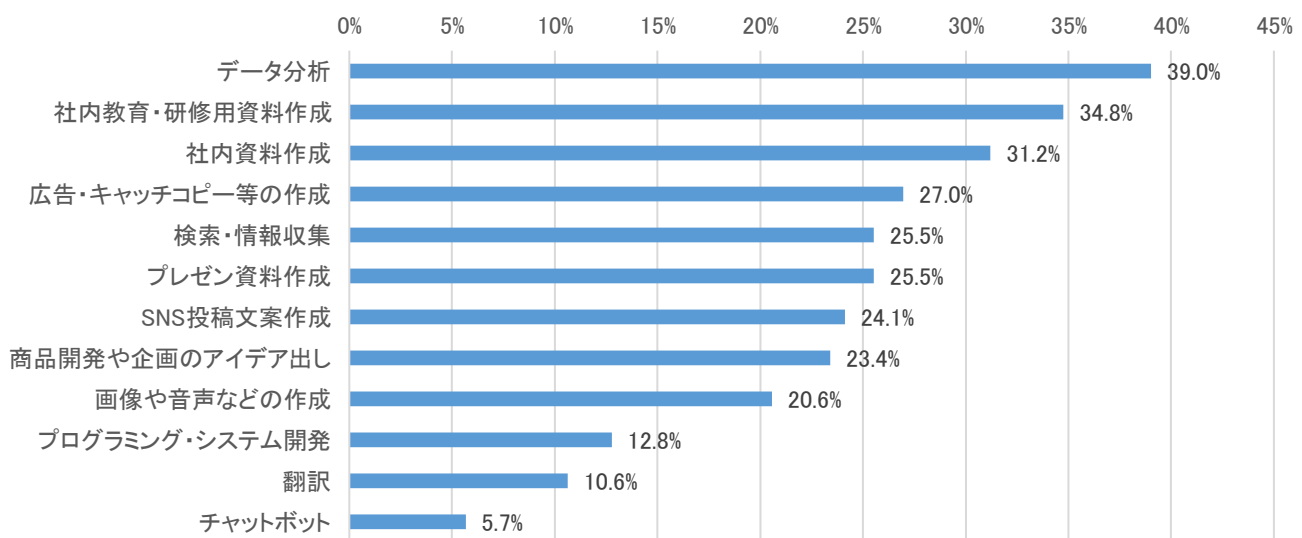
4. 生成AI導入の効果 (n=91 MA)

問1で「日常的に利用している」「定期的にご利用している」「たまにご利用している」と回答した方のみ



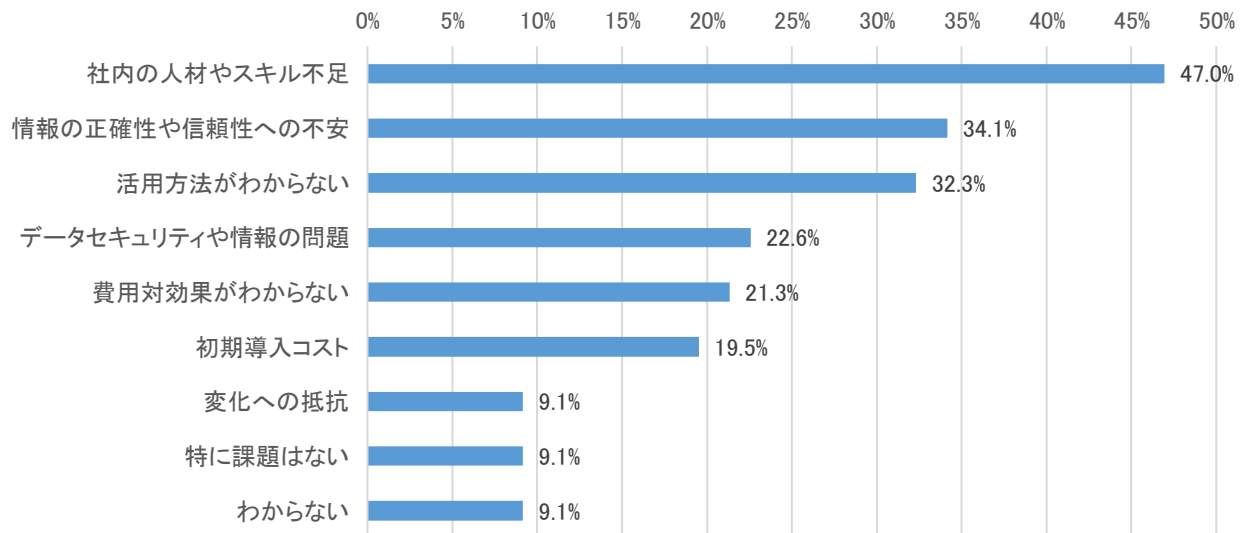
生成AI導入の効果は、「作業時間の短縮」が87.9%、「発想やアイデアの拡張」が67.0%となっており、業務の効率化や創造力の補完など、補助的な効果を認める企業が多い。一方で、「コスト削減」や「人手不足の補完」、「社員のスキルアップ」に対する効果はまだ薄い。「特に効果はなかった」とする回答はゼロであり、生成AIの導入によって、どの企業でも何らかの効果を得られているようだ。

5. 今後活用したい用途 (n=141 MA) 問1で「利用する予定はない」と回答した方を除く



生成AIの今後活用したい用途は、「データ分析」が39.0%、「社内教育・研修用資料作成」が34.8%となった。定型業務の効率化から課題解決や付加価値を高める業務へ、生成AIの用途が拡大していくことが予想される。

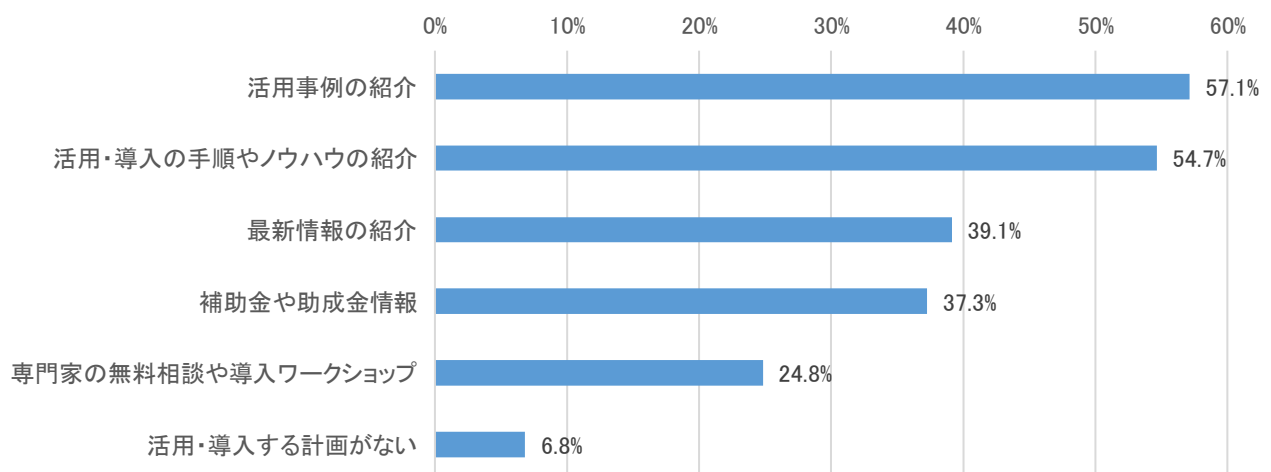
6. 導入上の課題 (n=164 MA)



生成AI導入上の課題は、「社内の人材やスキル不足」が47.0%と最も多く、次いで「情報の正確性や信頼性への不安」が34.1%、「活用方法がわからない」が32.3%と続いた。生成AIは、意図した成果物を生成させるための指示文（プロンプト）を適切に作成するスキルや、生成AIが生成した情報の正確性・信頼性を評価する情報リテラシーが求められることから、それを課題としている企業が多い。「データセキュリティや情報の問題」も22.6%となり、リテラシー教育やルール整備が求められている。

生成AIは、既存のSaaS型ツール（ソフトウェアをインターネット経由で利用できるサービス）を利用すれば低コストで利用できることから、コスト面を課題とする企業は一部にとどまった。

7. 求める支援について (n=161 MA)



求める支援については、「活用事例の紹介」が57.1%、「活用・導入の手順やノウハウの紹介」が54.7%と高く、実務的な支援を求める声が強い。補助金・助成金等の金銭的なサポートも一定のニーズがある。

(静清信用金庫 経営相談部 令和7年7月作成)